

令和5年度 文部科学省「授業時数特例校」指定校

令和4・5年度 埼玉県教育委員会『授業時数の弾力化に係るモデル校事業』指定校

## 研究紀要

【研究主題】

「総合的な学習の時間」を中核とした

カリキュラムの工夫・改善

—各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用—



令和5年11月30日(木)

熊谷市立三尻中学校

## あいさつ

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃

令和4・5年度の2年間にわたり、文部科学省から「授業時数特例校」、埼玉県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校」に指定された熊谷市立三尻中学校の研究が、本日、発表の運びとなったことに心から感謝申し上げます。

さて、本市では、「新熊谷プロジェクト」で、「学力日本一」を目指すため、関連する教科や複数の単元にまたがる学習内容を精選、統合するなど、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業、先生と生徒が向かい合う授業を実践しています。

三尻中学校は、田沼良宣校長先生のリーダーシップのもと、研究主題を「『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫・改善」とし、全職員一丸となって研究に取り組んできました。総合的な学習の時間「未知（みしり）タイム」では、総合的な学習の時間を他教科と関連付ける、「教科横断的」な授業が行われています。また、「オーセンティック課題事例集」や、現実社会と学びとの関連を実感させる掲示をするなど、「オーセンティックな学び」を実現できるよう工夫しています。本日までの三尻中学校の研究と成果が、多くの方々の知るところとなり、学力向上の有効な手立ての一つとなることを大いに期待しております。

結びに、本会開催にあたり、元文教大学教授嶋野道弘先生、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課の先生方をはじめ、関係の皆様にご感謝申し上げますとともに、本日、御参会いただいた皆様のますますの御発展を祈念いたしまして、ごあいさついたします。

熊谷市立三尻中学校 校長 田沼 良宣

本校は、令和4・5年度の2年間にわたり、埼玉県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校」の指定を受けて、併せて令和5年度は、文部科学省から「授業時数特例校」の指定を受けて、研究を進めてまいりました。研修主題は「『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫・改善 ―各教科等を買き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用―」です。

現行学習指導要領の基本方針の1つに「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」があります。教育活動の質をこれまで以上に向上させ、学習効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進するためには、教科等の目標や内容を見通し、教科横断的な学習の充実を図ることが求められています。本校においては、熊谷市の全ての小中学校で推し進める「新熊谷プロジェクト」に基づき、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業実践を通して、知・徳・体のバランスのとれた学力の向上に努めているところです。

本日はここに研究の一端を発表いたしますが、研究不足の点多々あろうかと存じます。御参会の皆様方の忌憚のない御指導、御意見等を今後の指導に生かしてまいりたい所存です。

結びになりますが、本校の研究推進にあたり、懇切丁寧に御指導いただきました、元文教大学教授嶋野道弘先生をはじめ、埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課、北部教育事務所、熊谷市教育委員会の先生方に、職員一同、心より感謝申し上げます、あいさついたします。

## 御指導いただいた先生方

元文教大学教授

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課副課長

埼玉県教育局市町村支援部義務教育指導課指導主事

埼玉県教育局北部教育事務所主席指導主事

埼玉県教育局北部教育事務所教育支援担当指導主事

埼玉県教育局北部教育事務所教育支援担当指導主事

熊谷市教育委員会教育長

熊谷市教育委員会参事兼学校教育課長

熊谷市教育委員会学校教育課副課長

熊谷市教育委員会学校教育課指導主事

熊谷市教育委員会教育研究所指導主事

深谷市立花園小学校教頭（元北部教育事務所教育支援担当指導主事）

嶋野 道弘 先生

齋藤 博伸 先生

細野 仁 先生

秋元 政康 先生

市川 篤史 先生

野村 真司 先生

篠原 剛 先生

野原 晃 先生

中谷 樹 先生

堀江 広樹 先生

杉山 良一 先生

青木 大亮 先生

矢島 弘一 先生



## 主題設定の理由

現行学習指導要領の基本方針として「各学校におけるカリキュラム・マネジメントの推進」が示されている。教育活動の質を向上させ、学習の効果の最大化を図るカリキュラム・マネジメントを推進するためには、教科等の目標や内容を見通し、教科横断的な学習の充実を図る必要がある。熊谷市においては、「学力日本一」を目指し「新熊谷プロジェクト」を推進している。「新熊谷プロジェクト」では、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、教科横断的でオーセンティックな授業実践を通して、学力向上を目指しているところである。

そこで本校では、県教育委員会から「授業時数の弾力化に係るモデル校事業」の指定を受け、本研究主題「『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫・改善」を設定した。令和4年度実施の全国学力・学習状況調査の結果からは、実施教科共通で「自分の考えを、筋道を立てて記述すること」が課題として挙げられた。本校の実態を踏まえ、副題として掲げた「各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力の育成と活用」に重点をおき、研究を推進していくものである。

## 育成する資質・能力

(1) 探究課題を自ら設定し、情報を集め、整理分析して、まとめ・表現することのできる力

(主に総合的な学習の時間で育成する能力)

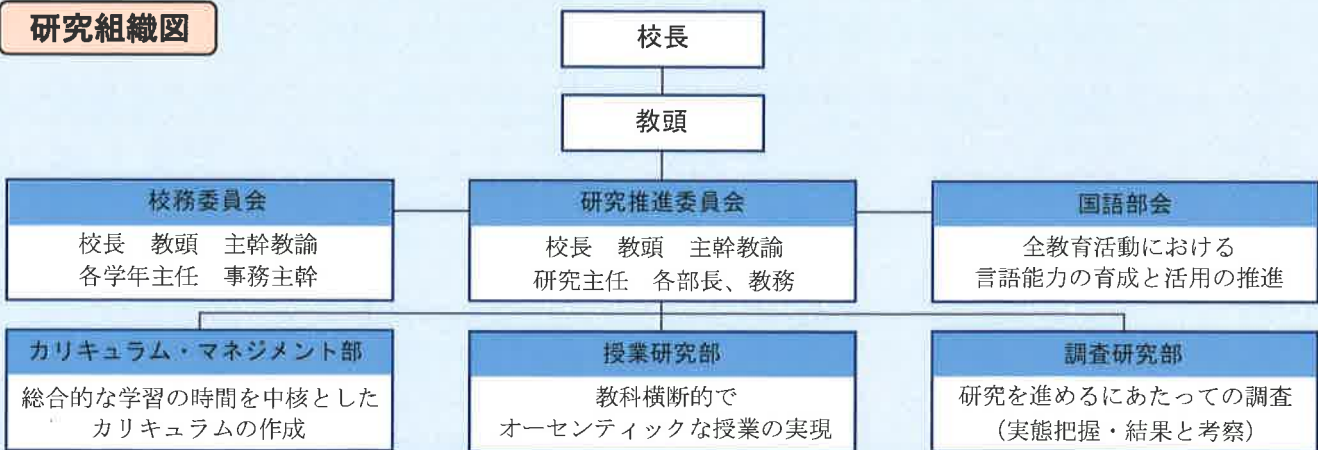
(2) 教科横断的な、「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」いわゆる汎用的能力

(総合的な学習の時間を中核として、教科横断的に育成する能力)

(3) 各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力

(国語科の学習を土台として、教科横断的に育成する能力)

## 研究組織図



### 「新熊谷プロジェクト」の取組

#### — 教科横断的でオーセンティックな授業 —

関連する教科や複数の単元にまたがる学習内容を精選、統合するなど、「総合的な学習の時間」を中核としたカリキュラム改善により、「知識及び技能」、「思考力、判断力、表現力等」、「学びに向かう力、人間性等」、いわゆる汎用的能力を育成します。



## 授業時数特例校制度

授業時数配分弾力化のイメージ (文部科学省)

### 【標準授業時数】

教科A	教科等B	その他の教科等
1割を上限として標準授業時数を下回った教育課程の編成を認める		
時数の上乘せにより、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成に資する学習や探究的な学習活動を充実		
教科A	教科等B	その他の教科等
総枠 (学年の年間標準授業時数の総授業時数) は維持		

学年ごとに定められた各教科等の授業時数について、1割を上限として標準授業時数を下回って教育課程を編成することを特例的に認め、下回ったことによって生じた授業時数を別の教科等の授業時数に上乘せし、教科横断的な視点に立った資質・能力の育成や探究的な学習活動の充実に資する教育課程の一層の推進を図る制度。

## 各学年、各教科等の授業時数

	1年	2年	3年		1年	2年	3年
国語	140→130(-10)	140→130(-10)	105→95(-10)	音楽	45	35	35
社会	105→103(-2)	105→103(-2)	140→138(-2)	美術	45	35	35
数学	140→138(-2)	105→103(-2)	140→138(-2)	保体	105	105	105
理科	105→103(-2)	140→138(-2)	140→138(-2)	技・家	70	70	35
英語	140→138(-2)	140→138(-2)	140→138(-2)	道徳	35	35	35
総合	50→68(+18)	70→88(+18)	70→88(+18)	学活	35	35	35
				合計	1015	1015	1015

1. 左表のように5教科からそれぞれ時数を引き、その分を総合の授業時数に追加する。

2. 3年生の受験を考慮し、A週のみ「授業時数の弾力化」を適用する。

3. 月火木金曜日に各1時間ずつ「5科」を設定し、「5科ローテーション計画」を基に5教科の授業を割り当てる。(詳細はP.4参照)

## 「5教科」と「総合的な学習の時間」時数の詳細

A週：前期20週、B週：後期15週 計35週

1年生	国	社	数	理	英
5科ローテーションの時数	10	18	18	18	18
A週(20週)の授業時数	3*20=60	2*20=40	3*20=60	2*20=40	3*20=60
A週の合計授業時数	70	58	78	58	78
B週(15週)の授業時数	4*15=60	3*15=45	4*15=60	3*15=45	4*15=60
年間合計授業時数	130	103	138	103	138
各教科から引いた時数	-10	-2	-2	-2	-2
総合の総授業時数	10+2+2+2+2+50(弾力化適用前の年間時数)=68				

2年生	国	社	数	理	英
5科ローテーションの時数	10	18	18	18	18
A週(20週)の授業時数	3*20=60	2*20=40	2*20=40	2*20=40	3*20=60
A週の合計授業時数	70	58	58	58	78
B週(15週)の授業時数	4*15=60	3*15=45	3*15=45	3*15=45	4*15=60
年間合計授業時数	130	103	103	103	138
各教科から引いた時数	-10	-2	-2	-2	-2
総合の総授業時数	10+2+2+2+2+70(弾力化適用前の年間時数)=88				

3年生	国	社	数	理	英
5科ローテーションの時数	10	18	18	18	18
A週(20週)の授業時数	2*20=40	3*20=60	3*20=60	3*20=60	3*20=60
A週の合計授業時数	50	78	78	78	78
B週(15週)の授業時数	3*15=45	4*15=60	4*15=60	4*15=60	4*15=60
年間合計授業時数	95	138	138	138	138
各教科から引いた時数	-10	-2	-2	-2	-2
総合の総授業時数	10+2+2+2+2+70(弾力化適用前の年間時数)=88				

「授業時数の弾力化」適用後の各教科時数について

例：1年社会 週3コマ→ 週2コマ+「5科」

2年英語 週4コマ→ 週3コマ+「5科」

3年国語 週3コマ→ 週2コマ+「5科」



総合的な学習の時間（<sup>みしり</sup>未知タイム）増加の意図

① 探究的な学習活動の充実

➡ 「自ら課題を発見し解決する力」の向上

② 各教科(国・社・数・理・英)の学習内容の一部移行

➡ 教科横断的でオーセンティックな授業の実現

➡ 各教科等の学力の向上

5科ローテーション計画

	月・週	日にち	学年	曜日 校時	1組	2組	3組	4組
I	4月3週	4月18日	1年	火2	英語	国語	社会	数学
			2年		英語	国語	社会	理科
			3年		英語	国語	社会	数学
		4月20日	1年	木2	理科	英語	国語	社会
			2年		数学	英語	国語	社会
			3年		理科	英語	国語	社会
		4月21日	1年	金2	数学	社会	英語	国語
			2年		理科	数学	英語	国語
			3年		数学	理科	英語	国語

「5科ローテーション計画」

週4回ある「5科」の時間に「国語・社会・数学・理科・英語」が均等に組まれるよう「5科ローテーション計画」を作成し、生徒や教員に配付している。

定期試験間際や長期休業前に、時数が足りない教科があった場合は、教科を入れ替える等、柔軟に対応している。

時間割の例について（例1年生A週）

	月	火	水	木	金
1	美術	学活	英語	保体	保体
2	5科	5科	理科	5科	5科
3	社会	英語	数学	技術	国語
4	保体	国語	社会	技術	音・美
5	数学	理科	未知タイムB	国語	英語
6	道徳	未知タイムA		音楽	数学

1年2組（前期）時間割表

	月	火	水	木	金
朝前 6:30- 6:50	朝読書	朝会	朝読書	朝読書	朝読書 NE
1 6:50- 9:35	美術 ※本	学活 ※本	英語 ※本	保体 ※本・※本	保体 ※本・※本
2 9:40- 10:30	5科	5科	理科 ※本	5科	5科
3 10:40- 11:30	社会 ※本	英語 ※本	数学 ※本	技術 ※本	国語 ※本
4 11:40- 12:30	保体 ※本・※本	国語 ※本	社会 ※本	技術 ※本	音美 ※本・※本
給食 12:35- 13:15	給食 歯磨き・昼休み				
5 13:40- 14:30	数学 ※本	理科 ※本	未知タイムB	国語 ※本	英語 ※本
6 14:40- 15:30	道徳 ※本	未知タイムA		音楽 ※本	数学 ※本
清掃 15:35- 17:40	清掃 ※月・※金・※土(5:35-15:50)				
校舎 下り	9月学期中17:45 朝読書17:50 11月2学期中17:00 12月学期中18:40 1月学期中17:00 2月2学期中17:15 3月学期中17:30 4月学期中17:40				

※A週（前期）の総合的な学習の時間 週時数

1年生：未知タイムA 1時間、B 1時間 計2時間

2年生：未知タイムA 2時間、B 1時間 計3時間

3年生：未知タイムA 2時間、B 1時間 計3時間

※B週（後期）の総合的な学習の時間 週時数

全学年：未知タイムA 2時間

総合的な学習の時間を中核としたカリキュラムの見直し

総合的な学習の時間を「未知のものを探究する時間」と捉え、「未知タイム」として、カリキュラムの見直しを行った。自分の生活と地域等との関わりについて探究することを通して、自己の生き方を考えることができる生徒を育成するために、3年間を通して「熊谷」をテーマとして設定した。

学年	学年のテーマ	中心単元と学習活動
1 学年	「熊谷ってどんなところ？」	「様々な視点から熊谷を学ぼう」 ○熊谷市の良さをPRする。
2 学年	「新しい熊谷を創るには？」	「熊谷改革を提言しよう」 ○熊谷市をより良くする政策を考える。
3 学年	「どのように熊谷と生きる？」	「自分の意見を論理的にまとめよう」 ○熊谷市をテーマに卒業研究をまとめ、発表する。

各教科の学習内容・学習活動における総合的な学習の時間への移行部分

各学年で18時間増加した「未知タイム」においては、以下の学習内容と学習活動を追加した。国語科に関しては後述の言語能力表をもとに、総合的な学習の時間における探究的な学習の過程に国語科の学習内容を位置付けた。

	社会	数学	理科	英語
1 学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>身近な地域の歴史的な特徴を多面的・多角的に考察し、表現する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>正の数・負の数の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象災害に対応するための方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報のまとめ方</li> <li>視覚的資料の作成の仕方</li> <li>タブレットの活用方法</li> </ul>
2 学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域の実態や課題解決のための取組を理解する</li> <li>地域のあり方を地域の変容などに着目し多面的・多角的に考察する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>一次関数の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気象災害に対応するための方法</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報のまとめ方</li> <li>視覚的資料の作成の仕方</li> </ul>
3 学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会の実現へ向け自分には何ができるか考え、その解決策を提案することを通して社会参画の手がかりを得る</li> <li>レポートの構成等の基本的な約束事に従い、適切なレポートを作成する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>変化の様子が一定ではない関数</li> <li>1つの式に表すことのできない関数</li> <li>標本調査の利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>持続可能な社会を実現するために、今の自分ができることは何かを考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報のまとめ方</li> <li>報告物の作成の仕方</li> </ul>

各教科の学習内容・学習活動を踏まえた総合的な学習の時間の授業

本校で作成した「未知タイム」の年間計画は以下のものである。各単元における探究的な学習の過程、言語能力表との関連、各教科との関連を明記した。この年間計画に加え、各教科から配当された時間に関しては、指導案や「未知タイム 単元構想シート」、ワークシートを共有することで、各教科で減じた相当の時数を確保することができる。

探究的な学習の過程・言語能力表との関連

◎熊谷改革を提言しよう

○熊谷の政策を知ろう。

各教科から配当された時間と内容

- ・日常生活と熊谷市政策の関わりを知る。 **課中2①**
- ・熊谷で現在行われている政策を調べる。 **情中2①**
- ・情報を分析し、政策の成果と課題点を考える。 **整中2⑦⑧**  
**社会(2)【地域のあり方】**  
○身近な地域の課題を見つけ、解決策を構想する。
- ・調べたことを、報告書にまとめる。 **基中2⑫**  
**国語(2)【観点を明確にして伝える】**  
○図表やグラフを用いて、聞き手に伝える。

○熊谷市議員として、提言しよう。

「未知タイム」の提言文を作成する活動において、国語科との関連を図った。

- ・調べた熊谷市政策の課題を整理する。 **課中2③**  
**国語(2)【新聞の投書を書く】**  
○投書を書くために、多様な方法で情報を集める。
- ・他市町村の政策と比較し、情報を集める。 **情中2②**
- ・熊谷をより良くするための、新たな政策を考える。 **整中2⑨**
- ・市長訪問会を実施し、提言する。 **基中2⑩⑪**  
**国語(2)【根拠をもとに意見文を書く】**  
○考えの理由付けを示して、政策の提案文を書く。

未知タイム 単元構想シート

教科名 社会

担当教科の単元名 地理的分野 地域の在り方		総合的な学習の時間の単元名 熊谷改革を提言しよう	
担当教科等で行う学習活動・学習内容	時間数	内容を取り入れた段階と総合的な学習の時間の学習活動・学習内容	
<b>【学習内容】</b> ・地域の実態や課題解決のための取り組みを理解する ・地域の在り方を地域の変容などに着目し多面的・多角的に考察する <b>【学習活動】</b> ・身近な地域の課題を見つける ・解決策を構想する	2	<b>【段階】</b> ① 課題の設定 ② 情報の収集 ③ 整理・分析 ④ まとめ・表現	<b>【学習内容】</b> ・熊谷市の課題 ・熊谷市の政策 <b>【学習活動】</b> ・熊谷市の政策にはどのような政策があるか調べる
指導方法（誰が、どのような教材を用いて、どのように指導したのか。） 学年団の教員が、プリントを用いて、タブレットを使い、第2次熊谷総合振興計画について調べる活動を各クラスで指導した。			
<b>成果</b> ・ICTを活用し、グラフや資料を読み取るような社会科のスキルを用い、熊谷市の政策について調べることができた。 ・同じ教材を学年団で使うことで、指導のズレが生まれなかった。		<b>課題</b> ・政策の中には、難しいものもあり、3年で学ぶ公民的分野の内容があったため、政策によっては調べ学習が進みづらいところがあった。	

全職員が可能な限り同一の指導をすることを目的として、当該教科と総合的な学習の時間との関わりや指導方法等を明記した。

さらに、「成果」・「課題」を明記することで、今後の指導の改善に活かす



「オーセンティック課題事例集」の作成

関連する教科や複数の単元にまたがる学習内容を精選・統合するなど『総合的な学習の時間』を中核としたカリキュラムの工夫改善を図るためには、熊谷市が目指す「現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近付けた教科横断的でオーセンティックな学び」の実現が不可欠である。

そこで本校では、各教科の学習の文脈を、現実社会の実践に可能な限り近づけるために、課題設定の工夫を行っている。その全教科の実践を抜粋し、「オーセンティック課題事例集」としてまとめた。

【 2 学年「社会」における実践例 】

課題事例（案）

学年	教科	単元名
第2学年	社会	地理的分野 C日本の様々な地域 (4)地域の在り方
目標	地域の在り方を、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察し、表現できる(思・判・表)	

1. 本時の課題

色々な地形図を比べてみよう ～新しい避難所の場所を決めよう

発問：新しい避難所の場所を作ろう



●学習活動

- ・洪水が来やすい場所や避難所の特徴をとらえる
- ・もっと安全な場所がどこかハザードマップと様々な地図を比べ、提案する

使用するもの

- ・今昔マップweb
- ・比較する地図
- ・洪水浸水想定地図
- ・国土地理院地図

2. 教科等・日常生活との繋がり

学年	教科等・行事	単元名・内容
全学年	総合的な学習の時間	新熊谷プロジェクト 熊谷を知る
第1学年	理科	身近な大地の歴史

オーセンティックな視点を授業に取り入れることで、生徒は身近で実際に起こりうる状況や場面を想定し、現実社会に触れることになる。

生徒は「なぜこの教科(単元)を学ぶのか?」という学習の必要性を実感することができる。

現実社会における人々の実践は各教科の枠内に収まらない。現実社会で起こる問題を解決するためには、複合的な知識を必要とするため、生徒は、教科横断的な視点を意識する。

教員は、他教科との関連を授業で増やすことで、より自分の教科での生徒の学習内容を深めることができ、継続して体系的な学びを実現できるようにした。

全国学力・学習状況調査を活用した指導力向上研修

授業研究部では、全国学力・学習状況調査の過去問題の中から、「オーセンティックな(日常生活との繋がりが深い)題材」「教科横断的な内容」に視点をしばって問題を選定した。指導力向上研修では、国語・数学・英語・理科の4教科に分かれて、その問題を解き、出題傾向を捉え、自身の教科指導に繋がる内容について意見交換を行った。





## 三尻授業スタイルの確立 と「学びボード」の設置

「三尻授業スタイルの確立」について、生徒が持つ「学習のきまり」に明記し、生徒に周知する。黒板には課題・めあて・まとめ・振り返りの掲示物を貼付するなど、授業展開を全教科統一で指導する。また、教科横断的な学びの実現に向けた「学びボード」を教室に掲示した。各教科でどのような単元を行っているのか、また、どのような課題が出されているのか可視化して、全生徒・教員で共通理解を図る。

### 1 時間の授業の流れ

- 課題 : オーセンティックな課題（日常生活との繋がり）を設定し、主体的に取り組ませる。
- 考え・深める : 見通しをもって、解決させる。  
グループワークで対話的に行わせる。
- まとめる : 生徒の言葉で表現させる。
- 振り返る : 身に付いた力を実感させる。

各教科の欄に、現在学習している単元や課題の範囲を記入する。生徒・教師が教室で、各教科の進捗状況や提出物を確認することができる。

科目	提出物・範囲	チェック日
国語	漢字マスター35	7/13(水)
数学	一次関数 ワーク P52-53	7/19(水) ★
理科	化学反応式 7-2 7/19	7/25(月)
社会		
英語	スピーキング ワーク P34-35	7/21(水) ★
音楽		
美術		
保健	保健1-1	(木)
体育		

チェック日の欄には★を付け、生徒が優先順位を明確にし、計画的な学習を進めている。

## 三尻 授業スタイル

～三尻中の授業の流れ～

### 今日の課題

日常生活で使えることかな？  
今までの学びとの関連はあるかな？  
どうすれば分かるかな？

### 考え・深める

自分一人で解決しよう！  
グループワークで考えよう！

### まとめる

今日の課題はどうしたら解決できたかな？

### 振り返る

今日の授業で分かったことを説明しよう！

達成できたかな？

「探究的な学習」で活用する言語能力と関連付けて、各教科でまとめを行っている。

## モデル授業の訪問と分析



課題を全体で確認する



考え方を人に説明する



意見をまとめ全体で発表する

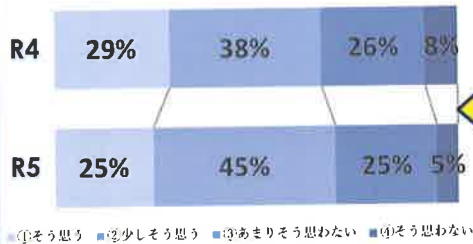
本校が独自に作成した『言語能力表』を活用して、言語活動を取り入れた授業の実践を参観し、職員で共有と分析を行った。分析から、「『知識構成型ジグソー法』や『KJ法』を効果的に活用していく。」「言語能力を身に付けさせるための活動（情報の比較方法・根拠の述べ方・読み手意識・具体的な主張の関連づけ・文章の構成）での手引きが必要ではないか。」という意見が挙げられた。

## 生徒アンケートと教員アンケートの実施

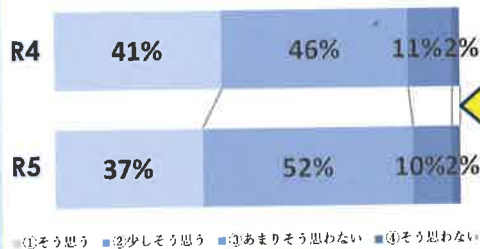
生徒の実態と変容を把握するために、本校独自のアンケートを作成し、実施した。本研究で育成する資質・能力の達成度を測る目的で、「よりよく課題を解決する能力」、「教科横断的な汎用的能力」、「各教科等を貫く言語能力」の3つの柱から質問項目を設定した。また、日々の教育活動において、育成する資質・能力をどれだけ意識できているかを測る目的で生徒の質問項目に対応した教員アンケートを作成し、実施した。次の結果は、この研究の取組によって教員の意識が向上し、生徒の変容が見られたと考えられる項目である。

### 生徒アンケート

「どうして～なのか」「なぜ～なのか」などの理由を考えるのが好き

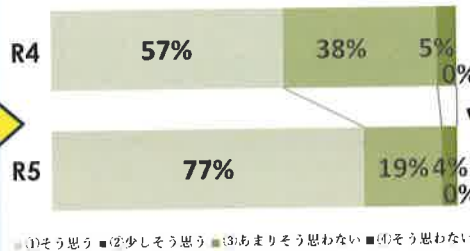


身近な問題を自分のこととしてとらえ、取り組むべき課題を見つけることができる

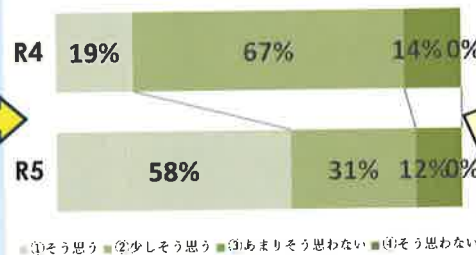


### 教員アンケート

「どうして～なのか」「なぜ～なのか」などの理由を考える場面を設定している



生徒が身近な問題を自分のこととしてとらえ、取り組むべき課題を見つけられるように支援している



探究的な学習の基となる課題設定において、疑問を持つことは欠かせない。教員が授業において意図的にこのような場面を設定することによって、生徒に変容が見られた。

オーセンティックな課題を軸とし、総合的な学習の時間のカリキュラム改善ができた。自らの考えや課題が新たに更新され、学習の繋がりが探究のサイクルを作り出すこととなった。

## 現実社会と学びとの関連を実感させる掲示

### 学校での学びが社会とつながると...

身の回りのなぜ 算数・数学で

「割合、比例」の利用

↓

料理の工夫

実生活への活用

新聞から、現実社会と学びとの関連が見られる（オーセンティック）記事を教員が切り取り、掲示した。授業でオーセンティックな課題に取り組むことに加え、学校で学んだ学習内容の有用性に着目させることを目的とした。これにより生徒たちは、今まで以上に意欲的に授業に向かうことができるようになると思う。

学校で学んだ内容がどのような場面で活かしているか

新聞は情報の宝庫！！





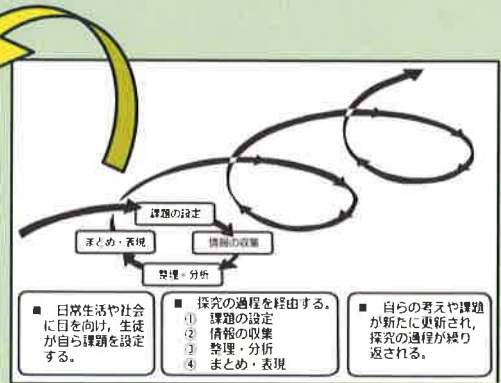
探究的な学習の過程と国語の言語能力

総合的な学習の時間における「探究的な学習の過程」に国語科の学習内容を位置付け、言語能力表を作成した。主に、総合的な学習の時間で言語活動の充実を図るためのものであるが、「言語能力は全ての学習の基盤」と考え、どの教科においても国語の授業で既に学習したことを活用し、効果的な指導をすることができるようになった。前述の「未知タイム」の年間指導計画への表記や言語活動を取り入れた授業実践はこの表をもとに構成されている。

各教科等における「探究的な学習」で活用する言語能力

課題の設定 ⇒ 情報の収集 ⇒ 整理・分析 ⇒ **まとめ・表現**

	小5・6	中1	中2	中3
読解・調べ学習	⑩ 話の内容が明確になるように構成を考へること 事実・感想・意見の区別	⑩ 考えや根拠が明確になるように話の構成を考へること 事実(根拠)と意見の相関	⑩ 立場や考えが明確になるように話の構成を工夫すること 根拠の適切さ【適合性】 論理の展開【話の順序】	⑩ 相手を説得できるように話の構成を工夫すること 聞き手に応じた説明 語り手の効果的な使い方
書く学習	⑪ 資料を活用するなどして表現を工夫すること 文意や数値の引用 実例・図表・装飾の活用	⑪ 相手の反応を踏まえながら表現を工夫すること 聞き手の受け止め方 聞き手の理解の状況	⑪ 資料や機器を用いるなどして表現を工夫すること 本・図表・グラフ・写真の提示 プレゼンテーションソフト利用	⑪ 状況に応じて言葉を選ぶなど表現を工夫すること 語り手の思い遣え、内容補足 聞き手の反応への働きかけ
発表学習	⑫ 自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫すること 書き表し方(例) 事実・感想・意見の区別引用、図表・グラフの活用	⑫ 根拠を明確にしながら、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること 誰かの記事に基づいた構構複雑な事例、専門的知識の引用	⑫ 根拠の適切さ・表現の効果を考えて、自分の考えが伝わる文章になるように工夫すること 説明や具体例の追加 効果的な語り口や表現の選択	⑫ 自分の考えが分かりやすく伝わる文章になるように工夫すること 文体・語り口・文末表現の工夫 資料の適切な引用
	⑬ 文や文章を整えること 内容・表現の一貫性 適切な構成・記述 事実・感想・意見の区別引用、図表・グラフの使い方	⑬ 読み手の立場に立って、文章を整えること 表記や語り口の用法 叙述の仕方	⑬ 読み手の立場に立って、文章を整えること 説明・具体例・挿入の効果	⑬ 文章全体を整えること 目的や意図に応じた表現

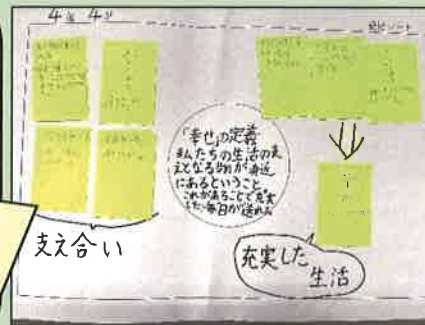


国語科で身につけた言語能力を「未知タイム」や各教科等の「探究的な学習」において活用する。

各教科等の学習活動において国語科で育成した「言語能力」の活用や定着を図っている。それにより、本校のカリキュラムにおいて、国語科の授業時数を10時間削減することが可能になった。

「言語能力の育成と活用」についての授業研究の実施

「言語能力の育成と活用」について、全教員で共通理解を図るため、国語科教員3名による国語の授業を14時間公開し、授業研究を行った。これを通じ、各教科において「どのような場面で言語能力を活用できるか」について考え、授業に生かすことができた。(写真は【中1⑦話し合い】の授業)



言語能力と学年別配当漢字の掲示物



言語能力の活用について生徒に意識させるため、言語能力表の重点項目を掲示した。(写真左)また、漢字に触れる機会を増やすため、学年別配当漢字表を掲示(写真右)するとともに、教員にも配布し、各教科等で意識して指導できるようにした。

研究の成果（育成する資質・能力の観点から）

（１）探究課題を自ら設定し、情報を集め、整理分析して、まとめ・表現することのできる力

令和５年度全国学力・学習状況調査【生徒質問紙「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」】では、現３年生は旧学年中（令和４年度２年生）、テーマ「新熊谷プロジェクト」の一環で「未知タイム」に「熊谷」に焦点を当てた探究学習について年間を通して学習した結果、令和４年度３年生よりも前向きな回答を選んだ生徒が大幅に増えていた。研究主題「総合的な学習の時間を中核としてカリキュラムの工夫・改善」の推進を行った結果、テーマ「熊谷」を３年間系統的に指導することで、郷土愛が生まれ、「テーマ」に系統性を持たせることで、探究的な課題を自ら見つけ、解決しようという意識の醸成につながっていった。

（２）教科横断的な、「知識及び技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」いわゆる汎用的能力

令和５年度全国学力・学習状況調査 全国平均正答率（％）との比較、国語3.2 数学5.0 英語3.4 英語（話すこと）4.6上回っていた。特に国語(3)「我が国の言語文化に関する事項」9.2%超、数学「D データの活用」10.8%超、英語(1)「聞くこと」4.7%超であった。

令和５年度埼玉県学力・学習状況調査 学力レベル（県平均との比較）現２年生は数学・英語２レベル、現３年生は３科すべて１レベル超であった。非認知能力的な側面においては、「主体的・対話的で深い学びの実施」や「学習方略」など多くの項目で県平均を上回っていた。

教科横断的な視点で、言語能力の育成と活用を各教科等の授業に位置付けたことにより、生徒の言語能力を重層的に指導することができた。その結果、各種調査において「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」「学びに向かう力、人間性等」いわゆる汎用的能力の向上が見られたのではないかと考えられる。

（３）各教科等を貫き、全ての学習の基盤となる言語能力

国語科で身に付ける言語能力を一覧表に整理し、総合的な学習の時間等の年間計画に位置づけ、言語能力の活用を図ったことにより、既存の言語能力を生かして学習しようとする生徒が増えたことを実感している。学習の振り返りにも「以前より説得力のあるプレゼンができるようになってきた。」「今後、自分の意見を述べる場面では、今日学んだことを生かしていきたい」などの記載がみられた。国語科で学習したことを「未知タイム」で活用する、逆に「未知タイム」での取組に必要な言語能力を国語科の授業で学習するというように、生徒は今まで以上に学習の必要性を実感できるようになったと考えられる。

研究の課題

- 教科横断的な授業を進める際、教科担任制である中学校では、教科担当間の連携が不可欠となる。本年度、「単元構想シート」の活用や連携会議、教科を超えて授業を公開する研修等を通じ連携を図ってきたが、その在り方については更に工夫が必要である。
- 「オーセンティック課題事例集」の作成を通じ、課題設定に重点を置き授業改善を図ってきた。今後は、授業全体を通じ、熊谷市が目指す「現実社会に存在する、本物の実践に可能な限り近付けた教科横断的でオーセンティックな学び」を実現すべく授業改善を図っていく。
- 本年度のカリキュラム変更の考察については、現時点では十分とは言えず、年度の終了時、並びに次年度の生徒の姿・変容等から改めて考察する必要がある。

本校HPに本研究に関する資料を掲載しています。

QRコードを読み取り、HPからダウンロードしてご活用ください。

